

「All About Swine」の発刊によせて

日本SPF豚研究会会長 柏崎 守

近年におけるわが国の畜産は、国内における畜産物需要の安定的な増加に支えられて、現在では農業生産額の約3分の1を占める基幹的部門にまで成長しております。その中でも養豚産業は主要な地位を占めており、今後とも畜産発展の先導的な役割を果たしていくものと思われまします。しかしその一方で、牛肉を含む畜産物の輸入自由化等の国際化が進展しており、養豚産業をとりまく環境には厳しいものがあります。そうした中で、養豚産業の安定的な発展を図るには、国際競争力に耐え得る豚肉の低コスト生産とともに、消費者ニーズに応える安全かつ高品質化は何としても実現しなければならぬ課題であります。

さて、わが国におけるSPF豚の歴史は、その研究開発期間を入れますとかれこれ約30年になります。その間、幾多の困難な問題に直面しましたが、試行錯誤を繰り返しつつもどうか今日の評価を得るに至ったわけでありまします。ここ数年来SPF豚の飼養頭数は急速に伸びてきており、そのシェアは年々確実に拡大してきております。これも関係各位の努力の賜物であり、なお一層の発展が期待されております。

しかしながら、SPF豚といえどもこれから技術面で解決を図らなければならない研究課題が多く残されております。特にコマーシャル段階の生産者サイドからは、飼養、疾病、栄養といった面から新たな問題が提起されております。これらの問題の中には個々人の創意工夫によって解決できるものもありますが、コマーシャル豚の生産者、

ブリーダー、養豚技術者等が一体となってインターセクショナルに取り組まなければ解決できない問題も数多く含まれております。

日本SPF豚研究会は、そうした生産現場における技術的な問題をはじめ、わが国におけるSPF豚集団変換の推進上のもろもろの事項について議論し、会員それぞれの立場から一緒に考え、SPF豚経営の健全な発展を図ることを目的として設立された次第です。本研究会には誰でも入会できますし、研究発表も行えますので、SPF豚に興味のある方の入会をお待ちしております。すでに第1回研究集会を開催したところであり、SPF豚についての熱い議論が行われたところであります。

さらに研究集会に加え、SPF豚を中心とした種々の最新情報を会員にお知らせするために、少少きざなタイトルの誌名ではありますが、研究会誌「All About Swine」を定期的に発行することとなり、ここにその第一号をお届けする次第です。SPF豚生産にまつわるホットな情報の掲載に努力いたしますが、この研究会誌もオープンですので、会員の皆様からの投稿を歓迎します。

最後になりましたが、日本SPF豚研究会の活動に対して皆様からのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。なお、本研究会は日本SPF豚協会の事業の一環として設立され、研究活動を行うものであることをここにお知らせしておきます。本誌の発行に際して多大の労を賜りました日本SPF豚協会の関係各位に対し、改めてここに心より感謝申し上げます。